

「地獄絵ワンダーランド」展

三井記念美術館（東京・日本橋） 2017.07.15～09.03



本展覧会は、「怖れ」と「憧れ」の象徴としての地獄と極楽の美術を通じて、日本人が抱いてきた死生観・来世感を辿るものである。

なかでも近世以降、民間で描かれた様々な地獄絵極楽図は“楽しい地獄絵”といわれるような展開を遂げたものもあり、本展ではこれらにも焦点を当てている。つまり釜ゆでにされたり、血の池があったり、恐怖に身震いする画面の数々である「仏教美術に見られる地獄絵を集めた作品の展覧会」の開催である。

ようこそ地獄の世界へ 《のんのんばあと地獄めぐり！》 展示室1



作者「水木しげる」は、郷里の鳥取・境港で少年期を過ごしたが、ここで絶大な影響を与えたのが、実家のお守役に来ていた「のんのんばあ」で、その妖怪や地獄の話は名著『のんのんばあとオレ』に記されているが、ここではその「原画」が展示されて、のんのんばあと一緒に八大地獄をめぐることが出来る。

《地獄・十王図》 江戸時代 展示室7



人は死後冥界の裁判官である10人の王（十王）の裁きを受け、生前の罪業の重さに応じて転生先が決められるという。

よく知られる冥界の主とされる「閻魔（えんま）大王」も十王のひとりである。

他に「往生要集の世界」「六道・地獄の光景」「憧れの極楽」などの展示品がある。